

成果指標				
成果指標	「飲料水備蓄量/飲料水備蓄目標量10100%×100」を成果指標とする。なお、参考としてアルファ米等主食類備蓄料及び缶詰等副食類備蓄量はともに9000食とする			
指標設定の考え方	飲料水及び食糧の備蓄目標は、「愛媛県地震被害想定調査結果」に基づき、伊予市が定めた「備蓄物資整備計画」によるものとする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	100	100	100	100
実績	6.1	9.8	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	南海トラフ巨大地震被害想定に基づき、備蓄目標を定めることができた。今後はこの備蓄計画に基づき備蓄を行う。必要数量を確保・維持していくことが必要だ。水・食料についてはそれぞれ賞味期限があるため、期限切れ前に炊き出し訓練などで利用するなどの有効活用も含めた計画が必要だ。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	愛媛県地震被害想定調査結果に基づき備蓄計画の見直しを行い、今後5年程度を目途に備蓄物資の拡充を図る計画を定めた。しかし、備蓄物資の確保・保管には物理的な限界があることから、市民に国が周知・普及に努めている家庭内備蓄の啓発を推進する。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。
意見、課題	備蓄物資を計画的に整備して行くことを良とするが、保管場所や消費期限の問題等で全てを市で備蓄することが困難なことから、今後さらに民間事業者との協定や家庭での備蓄を推進しする必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	さらに重点化する。
意見、課題	二次評価の内容を踏まえ、さらに重点化すること。